

## 51

## 養生所等遺跡からわかった養生所の構造について

相川 忠臣

日本赤十字社長崎原爆病院

ボンペ・ファン・メールデルフォールトは1861年9月、日本初の近代的西洋式病院、養生所と医学所を小島佐古の丘に建設した。ボードインにより自然科学を教えるために分析窮理所が建設され、養生所・医学所・分析窮理所は精得館と改称し、明治維新後長崎医学校と名を変えてその地にあった。長崎医学校は第五高等中学校医学部（すぐに第五高等学校医学部と改名）の頃浦上に移転、長崎医学校跡地には佐古尋常小学校が設置された。小島佐古の丘にある仁田小学校と佐古小学校が小学生の減少により統合され、佐古小学校跡地に統合した仁田佐古小学校の新校舎と新運動施設棟が建てられることになった。旧佐古小学校の体育館がある場所に養生所があったので、長崎市文化財課が調査したところ、2015年10月、養生所北棟の礎石と冠木門の瓦敷が発見された。その後北棟の玉砂利の基礎部分がいくつも見つかった。養生所は二階建ての南棟と北棟からなる。両棟の各階には15ベッドの病室2つがあり、その間に位置して看護人室とそれに附属する1ベッドの個室がある。両棟の廊下は病室の片側のみ、中庭側にある。124ベッドのパンや肉が供されるオランダの陸軍病院のガイドラインにのっとって建てられた西洋式の病院であった。換気口が随所にあり換気には特別の配慮がなされている。

2017年8月には医学所の石垣と石段と分析窮理所遺跡が見つかった。さらに養生所の跡地に見つかった平石の並びを撮影し調べてみると、養生所はH型をしており、横棒に相当する連結部分にあった管理棟の構造がわかってきた。文化財課はそれが明治22年以降の小島病院の遺構であるとの見解に固執している。小島病院の石列溝の内側にある結晶片岩の平石の並びは旧佐古小学校の体育館コンクリート基礎築造で寸断されてはいるもののよく保存されており、小島病院の石列溝は養生所跡の平石の並びを保護するかのようである。建築者は保護するように配慮したのではあるまいか。連結管理棟は一階建て、両棟の看護人室の間にある。平石の並びから推測すれば、連結棟の中央に廊下があり、その南側に1つの大部屋、北側に中、小の2部屋があって、両棟をつなぐ渡り廊下に出る。渡り廊下の東側には別棟で浴室、調理室、洗濯場などがあったとおもわれる。古写真には広い大きい煙突と黒い細い煙突がある。養生所の門近くには診察室、ボードイン時代には眼科診療室が作られたと思われる。養生所は長崎製鉄所と同時期に建てられ、オランダ人が作成したこんにゃくレンガも見つかった。医学所の石垣と分析窮理所と解剖所に降りていく階段は明治11年ごろの絵図面とほぼ同じ程度残されていた。分析窮理所は旧佐古小学校の職員室として使用されていたが、昭和25年に壊され、運動場の拡張のため敷地の四分の三が削り落とされた。それでも分析窮理所の南側四分の一に相当する部分の両側の排水溝と平石の並びが発見された。長崎医学校やヘルツハウスなど教官居宅の遺跡はまだほとんど調査されておらず、心残りである。養生所・医学所・分析窮理所・長崎学校等遺跡が完全に保存されれば多くの内外の専門家とともに精細な調査できるのだが、養生所等遺跡の完全保存運動の行く末は厳しい。